

かたりべ 19

豊島区立郷土資料館だより



「牧場の一隅(秋)」

上の油絵は、昭和一〇年頃の桜木舎（現、南大塚一丁目）の牧場風景を描いたものです。内ヶ崎光枝氏作のこの絵は、昭和一〇年十一月の第九回構造社絵画展覧会で研究賞を受賞し、三年前にご本人より資料館に寄贈されました。

木柵に囲まれた牧場の後ろには民家が立ち並び、初秋の空には入道雲がわき出ています。今にも牛の鳴き声が聞こえてきそうな、のどかな都市近郊牧場の昼下がりです。

昭和八年の『東京牛乳畜産組合員名簿』によると、当時豊島区には七ヶ所の牧場やその関連施設がありました。しかし、最盛期の大正八年頃には、牛屋横町”と呼ばれた西巢鴨町の二六ヶ所を筆頭として、計四二ヶ所の牧場が点在し、東京市民の重要な牛乳供給地となっていました。

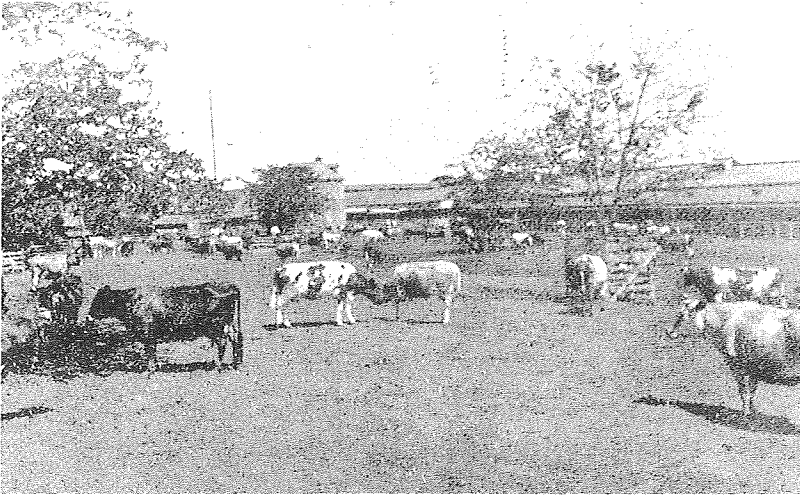
この絵のモデルとなった桜木舎は、区内で最後まで経営を続けていましたが、昭和二〇年四月十三日の空襲にあい、約二年後に廃止されました。

特別展

三ルク色の残像

—東京の牧場展—

8月16日(木)から10月14日(日)まで



角倉賀道によって始められた巢鴨・愛光舎牧場の風景

郷土資料館では、日本の酪農発展に重要な役割を果たしてきた東京の牧場に着目し、都内最初の試みとして東京の牧場展を開催いたします。

今回の特別展は、昨年度当館が行なった旧西巢鴨町地区の歴史生活資料所在調査の成果をもとにしています。一九八七年度特別展「失われた耕地—豊島の農業—」での牧場コーナーが子どもたちに大きな反響を呼んだことが、東京の牧場を取り上げる直接の動機となっています。ところで、明治中期から第二次大戦直後まで豊島区にはいくつの牧場があったかご存じでしょうか。高層ビルが立ち並び、人口密度が日本一高い今日の豊島区からは想像もつきませんが五〇年程前までは、区内のあちこちで乳牛の姿を見ることができたのです。

豊島区における牧場の創始者といえば、千葉から来た前田喜代松の名を忘れることはできません。一八八八(明治二一)年、前田が鬼子母神前に「北辰社」牧場を開いたのが豊島の牧場

資料館事業のご案内

資料館では、上記の特別展のほかに次のような事業を予定しております。

◎歴史生活資料所在調査

資料館では、一九八五年度から四回にわたり、「旧高田・雑司が谷地区」、「旧長崎地区」、「旧巢鴨町地区」、「旧西巢鴨町地区」の歴史生活資料所在調査を行なってまいりました。本年度の調査は、「旧池袋地区」を対象として一〇月二日から十一月十四日まで行なわれる予定です。今回で、五年に及ぶ所在調査は終了いたします。

これまで、調査員をはじめ大勢の区民の皆さんのご協力により、数多くの貴重な資料の所在が確認されました。これらの調査成果の一部は、常設展や特別展「高田・雑司が谷の生活資料」・「失われた耕地」などにいかされてきました。本年度も、区民の皆さんの積極的なご参加・ご協力をお願いいたします。

また冬には、所在調査の集大成として、収蔵資料を中心とした企画展を計画しております。詳細は「広報」に随時掲載いたします。

の始まりとされています。そしてこれ以降、区内には、角倉賀道の「愛光舎」や田村貞馬の「強国舎」など日本の牛乳搾取業を代表する牧場が、巢鴨・池袋地域を中心に次々と開設されました。そして一九四七（昭和二二）年に「桜木舎」が経営に終止符を打つまで、のべ六〇ヶ所の牧場が、東京市民に牛乳を供給し続けたのです。

今回の特別展では、豊島区をはじめ都内に数多く存在した牧場の歴史を掘り起こし、その存在の意味を考えていきたいと思ひます。

〈展示コーナー紹介〉

(1) 酪農のあけぼの

日本酪農の発祥地、嶺岡牧（現千葉県丸山町の「房州峯岡山野絵園」（享保十六年）や横浜外国人居留地、北海道などの資料を展示。

(2) 東京牧場の創始者たち

阪川牧場・四谷軒・北辰社・愛光舎・興真舎など代表的な牧場を貴重な写真と資料で紹介。

(3) 牛屋横町―豊島の牧場―

巢鴨地域を中心に豊島の牧場関係資料を展示。

(4) 東京ベイ・ミルクロード

東京牧場にみられた「預け牛」制度について千葉安房地方との関係を中心にみていく。

(5) 消えゆく東京牧場

東京牧場が都市化の波によって消えゆく過程を、昭和初期の疫牛事件を中心に考えていく。



愛光舎牧場の入口。牛乳運搬馬車の側面に「世界最優等乳牛ブラウンスイス」の文字がみえる。（「愛光舎事業一斑」より）

特別展記念講演会

主題 『豊島の牧場を語る』

日時 九月一六日（日）

午後二時～四時三〇分

講師

大沢鷹邇氏「愛光舎牧場について」
藤ヶ谷政明氏「山口牧場について」

吉川 実氏「吉川牧場の歴史」ほか

定員

五〇名（先着順）

会場

勤労福祉会館三階会議室・入場無料

◎講座

去る七月七日から八月四日まで「戦争の遠い記憶―疎開学童の日記を読む」と題して、五回連続の地域史講座が行なわれました。このほか資料館では、一〇月～十一月に「江戸以前―太田道灌の虚実」（五回）、「古文書のころろ」（五回）などの講座を開催する予定です。皆さんの参加をお待ちしております。

◎収蔵資料くん蒸作業

去る六月七日から九日までの三日間、資料館収蔵資料のくん蒸処理作業が行なわれました。くん蒸処理は、区民の皆さんからの寄贈や購入等により収集した貴重な資料を、虫害などから守るために欠かせないものです。

資料館では、引き続き九月一七日から二〇日まで、雑司が谷旧宣教師館付属棟収蔵庫の収蔵資料のくん蒸処理作業を予定しております。そのため、この期間、宣教師館は休館となりますのでご注意ください。

＊ ＊ ＊
〈特別展にともなう休館のお知らせ〉

資料館では、展示取付け及び撤収、常設展復元工事のため、次の期間休館します。

八月一〇日（金）～一五日（水）

一〇月一六日（火）～二〇日（土）

声 — 来館者からこんな声が寄せられました —

☆たのしかったです。

(12歳・女)

☆ためになった。だけど藤子不二雄たちのトキワ荘の障子がなかったのが残念。

(13歳・男)

☆地方の資料館なども見てきましたが、地方では主には理蔵文化財と民具の展示が大部分であり、それに比べるとこちらでは近代史が中心の展示で、ずいぶんと趣きが違うように思いました。

(63歳・男)

☆展示の内容で特に目を引いたのは、学童疎開を中心とした資料です。私は戦争を知らない世代ですが、「金丸お姉さん」との手紙を読んでいると、戦争の悲しさと、人の心の暖かさが直に伝わってくるような気がしました。

(24歳・男)

☆平和の時代に生きられたことに感謝すると共に戦争は絶対あってはならないとつくづく思います。

(62歳・女)

☆原始時代のものがあればいい。

(11歳・男)

☆久しぶりに見学し、戦中の様子、学童疎開の事(時習小学校)など、まだ昨日のように感じます。

(60歳・女)

☆ふとしたあいた時間に立寄りました。私は戦争時、要町小学校に在学し、山形県のお寺(常林寺)に集団疎開させられ、なつかしくも悲し

く思い出がえってきました。

(55歳・男)

☆ヤミ市の建物の模型が少々見づらく、もったいない気がしました。

(30歳・女)

☆戦災で家が焼失するまで大塚に住んでおりましたので、大変懐かしく拝見いたしました。

(63歳・男)

☆こんなのがあるとは知りませんでした。なつかしいです。アトリエ村やヤミ市のあったところの旧番地、新住所の入った地図があれば現在のその場所をみる事ができるので、それがほしいです。

(68歳・女)

——— たくさんのご意見・ご感想ありがとうございました。こゝに取り上げたもののほかに、アトリエ村やヤミ市に関する問い合わせが数件ありました。詳しくお知りになりたい方は、当館刊行の『常設展図録』や『アトリエ村史料』などが参考となります。また、六月に出した『史跡めぐり』(第五版、無料)には、さくらが丘・すずめが丘・つづじが丘の三つのアトリエ村が見学コースに組まれています。休日を利用して、お友だちやご家族で身近な町の歴史を探訪してみたいかがでしよう。

《寄贈・購入資料一覧》(四月—七月)

●寄贈資料

大澤富士子(西池袋三丁目)方面委員バッジ等

4、聴取無線電話票1、畜犬票1、切符13。

鈴木隆夫(横浜市栄区)羅災証明書1。

田村多喜子(北茨城市)書簡1、種痘証5、

通信箋5、試験成績証1、東京医療利用組

合員証1、電車・バス運転系統図1、大震

災写真ほか32、大東京市全図1、獎金付

勝札1、国防資材献納感謝状1。

辻村賢造(高松三丁目)入隊・従軍証明書各

1、欲送の辞1、ほか5。

並木輝太郎(長崎一丁目)五月人形2。

●購入資料 (敬称略)

浮絵飛鳥山花盛群集之図1。

武井武雄私刊豆本12。

貴重な資料をご寄贈いただき、ありがとうございます。

ございました。

現在資料館では、再開発が進む豊島区の変貌を記録に残すため、昔の区内風景や風俗を写した写真を集めています。区民の皆さんのご協力をお願いいたします。

かたりべ
No.19

1990年8月20日
発行
豊島区立郷土資料館
豊島区西池袋2-37-4
電話03-980-2351